

第1学年2組 生活科 学習指導案

日 時：29年11月2日（木） 第2校時
 場 所：第1学年2組教室
 指導者：T1（授業者）教諭 渡部 優里
 T2（指導者）NPO 福島県森の案内人の会
 相双地区支部支部長 柴田 猛

1 単元名 おもちゃをつくろう

2 本時のねらい

木工クラフトの活動をとおして木材の温かみを感じとらせることで、自然物のよさを味わいながら自分の思いを表現することができる。

3 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○ 指導上の留意点	評価
導入	1 学習課題を知り、本時のめあてをつかむ。 (1) 参考作品を見て、木工クラフトについて知り、作りたいもののイメージをふくらませる。 (2) 指導者の紹介を聞く。 (3) 本時のめあてをつかむ。 ◎木やドングリでかざりをつくろう。	7	○ 昨年度の1年生がつくった作品や、指導者がつくった作品を提示し「こんなものをつくってみたい」という思いをもたせ、イメージを広げる。その際、自由な発想を妨げないよう、作品はあくまで例示であることを伝える。(T1) ○ 担任が指導者を紹介するとともに、指導者が自己紹介をする。指導者の「森の案内人」という活動にもふれ、自然への興味を高める。(T1・T2)	
展開	2 木工クラフトの手順について知る。 (1) 木材の性質について。 (2) 用具の扱いについて。 3 作品づくりをする。 (1) 木材を磨く。 (2) デザインを工夫する。 (3) 貼り付けて仕上げる。	8 2 2	○ 木工クラフトの指導はT2が主として行い、T1はT2の補助及び、児童の個別支援に当たる。 ○ 木材は可塑性に富むこと、ふれたときに温もりを感じることを伝える。(T2) ○ カッターや紙やすりなど、用具の安全な使用法について指導する。(T2) ○ 土台となる木材の可塑性や温かみを感じ取らせながら、紙やすりをかけさせる。(T2) ○ 土台となる木材にドングリや模様などをボンドで固定する前に、配置を考えさせ、つくりたいもののイメージを広げさせる。(T2) ○ イメージどおりの配置ができれば速乾性木工ボンドで貼り付けさせる。その際、薄くつけることがポイントであることを押さえる。(T2) ◎自分の思いをふくらませながら、木工クラフトをすることができたか。(観察)	
終末	4 木工クラフトの作品を鑑賞し、学習のまとめをする。 (1) できた作品を鑑賞し合う。 (2) 木材のよさについてまとめる。 (3) 指導者にお礼を述べる。	8	○ できた作品を机上に飾り、自由に鑑賞し合わせる。その後、友達の作品のよさについて話し合わせる。(T1) ○ 木材の温かみや自然の大切さについて授業者が児童に知らせる。(T1) ○ 児童数名に木工クラフトの感想とともに、指導者へのお礼を述べさせる(T1)。	